

連載：私たちの住む街

【第9弾 越ヶ谷と大澤 その1】

越ヶ谷宿は、日本橋から数えて3番目の宿場で、江戸から6里8町、草加から1里28町の宿場町。

大沢地区あたりは、昔は「下総国」だった

江戸時代の頃までは、越ヶ谷側が武蔵国埼玉郡、大沢側が下総国新方庄で元荒川を挟んで二つの国の境界。

赤丸○は、現在の「元荒川」の流れです。

蛇行(湾曲)地帯の「袋山」「花田」は武蔵国、左岸側は下総国。そのため、久伊豆神社は越ヶ谷の町と陸続きだったのが、現在では元荒川の寺橋を渡るようになった。



大沢橋と鯺鮎屋

大沢橋は越谷市の越ヶ谷宿と大澤宿を結んで元荒川に架かる長さ50mの橋です。明治13年(1880)元荒川に大橋(大沢橋)が完成。昭和28年(1953)現在の橋に架け替えられた。それまでは木造であり昭和42年(1967)に現在の橋が完成。川の左岸(大澤宿)橋のたもとの「鯺鮎屋」は、元和元年(1615)創業。2010年2月に火災に遭い、現在は公園になっている



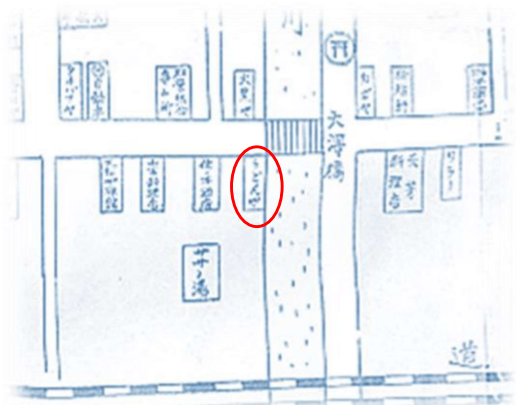
花柳界 (現在はありません)

「大沢橋から大蛇が出て、大澤通ひはやめられぬ」

と※俚謡(りよう)にも歌われている。大澤橋のたもと(現在の橋の北越谷寄り)に遊郭はあった。江戸時代の大澤遊郭は奥州街道での名物にあげられたくらいである。明治3年の廃郭令後も茶屋小屋が盛んで大澤に芸妓酌婦の絶える事は無かったそう。

料理店：天芳楼(天ぷら 鰻の馬鹿焼き)と加賀屋(川魚料理)、橋際の「鯺鮎屋」(右図赤丸)などでは連夜三弦の音が絶えなかったそう。

ほかにも大小の茶屋小屋があった様だが大正5年頃でも6軒の芸妓屋があったが、その後衰退した。



キャンベルタウン公園

東大沢にある「キャンベルタウン公園」は、1984年4月11日に越谷市とオーストラリアのキャンベルタウン市が姉妹都市となったのを記念して、1986年に整備された公園だ。正式には「鷺高第五公園」と言う。公園には、逆川沿いに「時計塔」、公園入り口に「石碑」がある。

北越谷駅

創設当初は「越ヶ谷駅」と呼んでいた。大正9年に越ヶ谷町に新駅が出来て「武州大沢駅」となった。

駅の創設は明治32年に遡る。駅舎には皇族関係者の休憩所(貴賓室)があり、ここから御猟場(現・鴨場)へ馬車で移動していたそう。

※ 民謡の同意語。明治から昭和20年代まで用いられたが、今日では死語となっている。「民間で歌い伝えられた歌、俗謡」をいい、田舎らしい唄、田舎の唄



参考文献 越谷市ホームページ
広報 こしがや H16年秋号
越谷ふるさと散歩 越谷の歴史物語